鹿児島県奄美パーク
事業報告書

２０１０　Ｌｅａｆ

目　　次

Ⅰ　鹿児島県奄美パーク概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅱ　平成２２年度の事業実績について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

Ⅲ　奄美の郷企画事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
１　季節感(年中行事)を取り入れたイベントの開催
(1) あまみっ子フェスタ　(2) 奄美パークわらべ島唄大会　(3) ネリヤカナヤフェスタ
(4) サマーコンサート　(5) フユウンメコンサート　(6) 初春唄あしび
(7) 奄美パーク春まつり ～シマジマだより～　(8) 奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～
２　奄美の郷ライブステージ
(1) ５月「でぃ・まーじんま！！第５弾」　(2) ６月「汝きゃ我きゃ島唄しょーろ！！」
(3) ９月「～南風の音にゆらおう～」　(4) １０月「Dancer In The Park 2010」
(5) １１月「天城町＆笠利町　あらしゃげてぃ　いっちゃりょんかい」
(6) ２月「第８回　奄美島唄への誘い」
３　文化講演会
４　その他の自主事業
(1) けんむんクイズラリー　(2) 地球交響曲(ガイアシンフォニー)第７番上映会
(3) 奄美パークこどもクリスマス会　(4) 奄美パーク クリスマスコンサート
(5) 新春寄席

Ⅳ　田中一村記念美術館企画事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
１　奄美関係作家展
(1) 重照代の原点　布によるパッチワーク 01　(2) 鹿児島県美展～奄美関連作家秀作展
(3) “あれから６年１８の夏”屋嘉比寛ＣＧ展　(4) 「ここから」本田紘輝展
(5) 「未来発奄美　バード加代子展」
(6) 「Ｉ ＬＯＶＥ AMAMI あかぎあけみの世界展」
２　田中一村記念美術館特別展「田中一村　新たなる全貌展」
(1) 田中一村記念美術館特別展「田中一村　新たなる全貌」
(2) 田中一村記念美術館特別展「田中一村　新たなる全貌」オープニングセレモニー
３　第９回　奄美を描く美術展
４　第６回　新緑～紅葉スケッチコンクール
５　「第６回新緑～紅葉スケッチコンクール」及び「第９回奄美を描く美術展」授賞式
６　美術講演「アマミノクロウサギ」
７　その他企画展
(1) ＴＯＤＡＹ’Ｓ ＡＲＴ ＴＥＸＴＩＬＥ ｉｎ AMAMI vol.2
(2) 「紙の上の仕事」森下良三展　(3) 第２回　大高芸術祭
８　その他
(1) 夏休み親子スケッチ大会　(2) 創作体験教室(風景画講座)
(3) 親子美術館探検　(4) 創作体験教室(人物画講座)

Ⅴ　各種イベントポスター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２１

Ⅵ　奄美パーク応援隊について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

Ⅶ　「田中一村　新たなる全貌展」総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

Ⅰ　鹿児島県奄美パーク概要

1　施設の目的

鹿児島県奄美パークは，奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホールや奄美シアター，人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と，奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点として，笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

2　設　置　者　　鹿児島県

3　開 園 年 月　　平成１３年９月３０日

4　指定管理者　　奄美群島広域事務組合（Ｈ１８.４.１～Ｈ２３.３.３１）

5　園長兼館長　　宮崎　緑（千葉商科大学政策情報学部長，ＮＨＫ「ＮＣ９」初の女性ニュースキャスター）

6　園 地 面 積　　約７７，０００㎡

7　総 事 業 費　　約７８億円

8　施設の概要

（１）奄美の郷（延べ床面積約３,２００㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは，琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

○総合展示ホール，奄美シアター（有料）

○アイランドインフォメーション，イベント広場，レストラン，売店

（２）田中一村記念美術館（延べ床面積約２,４９０㎡）

奄美の海をイメージした池に３棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

○常設展示室，特別展示室（有料）

○企画展示室，ガイダンス室，図書資料室，喫茶・ミュージアムショップ

（３）一村の杜（面積７，０００㎡，平成１９年７月２０日完成）

６つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽。それぞれのスポットで作品に描かれている風景を鑑賞。

（４）その他の施設

○多目的広場(約３，７８０㎡)，野外ステージ，展望台，駐車場（約２４０台）

9　観 覧 料 金　　共 通 観 覧 料：一般６００円（２０人以上の団体は４８０円）
高・大学生４００円（同３２０円）
小・中学生３００円（同２４０円）

10　休　園　日　　毎月第１，第３水曜日(祝日の場合は翌日)
（4/29～5/5，7/21～8/31，12/30～1/3は開園）

11　開 園 時 間　　９：００～１８：００（７月，８月は１９：００まで）

12　入 園 者 数　　平成２３年３月末現在　延べ１，５３２千人

13　組　織　図

園　長兼館長（非常勤）
- 次長（県）
  - 総務課長（次長兼務）
    - 担当２(県1,市町村1)
  - 事業課長（県）
    - 奄美の郷３(市町村1,非常勤2)
    - 田中一村記念美術館２(県1,市町村1)

計１０人(県職員4,市町村職員3,非常勤3)

Ⅱ　平成２２年度の事業実績について

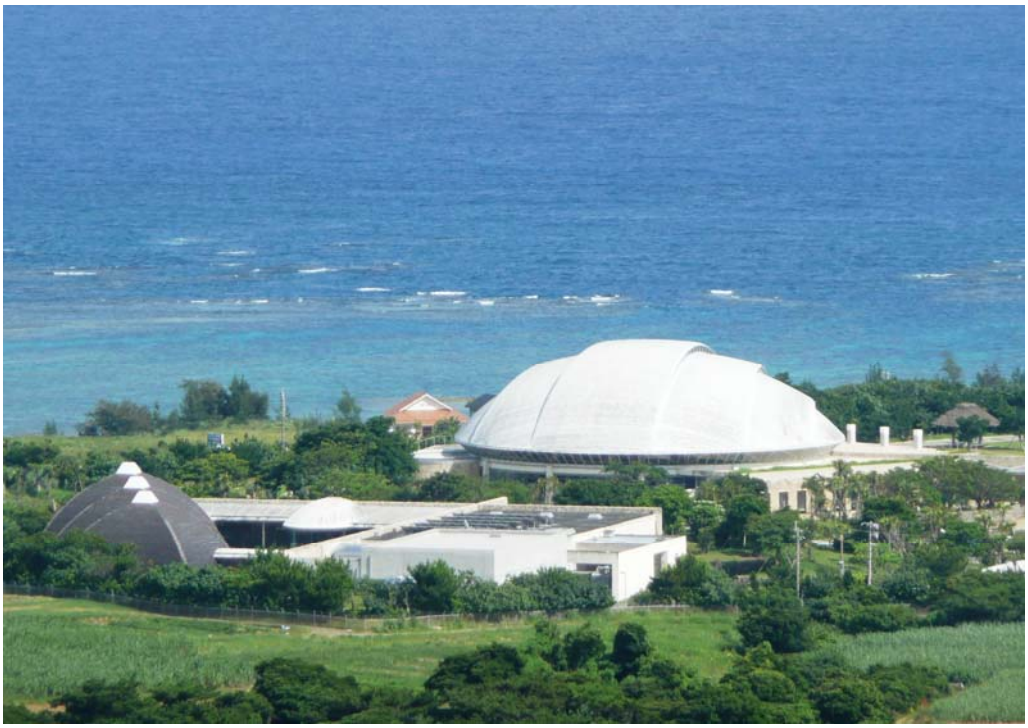
「奄美パーク」は，奄美群島の観光拠点の一つとして，また，奄美群島に居住する方々の交流等を目的に，奄美の自然，歴史，多様な文化を紹介する「奄美の郷」と奄美の自然を描き集大成させた孤高の画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」を中核に平成１３年にオープンしました。平成２３年３月末現在，約１５３万人の入館者があり，来たる平成２３年９月３０日にはいよいよ開園１０周年を迎えることとなります。

「奄美の郷」では，主に「イベント広場」でシマ唄，伝統芸能，踊り等で構成するイベントを開催し，「田中一村記念美術館」では常設展示の他，「企画展示室」において奄美関係作家展，奄美を描く美術展，創作体験教室などを開催しています。

特に２２年度は「田中一村　新たなる全貌」と題して，千葉市美術館，鹿児島市立美術館，そして田中一村記念美術館の３館合同で，全国から集めた一村の作品，２００点以上を一挙公開したところ，島内外より多くの一村ファンの来館がありました。

これらの事業の実施により，奄美の多様な文化や自然等の魅力を観光客に紹介するとともに地元の方々の交流も図りました。

平成２３年度以降も，地元の皆様とともに歩んでいく奄美パークを目指し，皆様からの助言や力添えをいただきながら事業を展開していきたいと考えておりますので，よろしくお願いいたします。



Ⅲ　奄美の郷企画事業

１　季節感（年中行事）を取り入れたイベントの開催

（１）あまみっ子フェスタ

子どもたちを対象にしたイベントを開催

日時：平成２２年５月４日（火）13:30～15:30

場所：多目的広場　　参加者数：約６００名

内容：　ステージ前半は，ビューグルバンド(奄美市立奄美小学校)の鼓笛隊によるオープニングマーチで始まり，ケイキ（フラカオスタジオ）による子どもフラダンス，アマンデー太鼓（奄美市立節田小学校）の六調太鼓演奏，ヤマト運輸名瀬支店による子ども交通安全教室が行われた。

　その後，インターバルの３０分間，広場にて様々なワークショップが催され，親子手作り教室（奄美手熟師会），広場で遊ぼう（奄美市レクリエーション協会），子ども交通安全教室（ヤマト運輸名瀬支店）などで，親子連れがエコバッグ製作やレクリエーション，交通安全教室やハイブリッド輸送車の見学などを体験した。フリープレイゾーンでは，サッカーやバスケット，フラフープの貸出を行い，屋外の広場で親子が体を動かして楽しんでいた。

　ステージ後半では，大道芸人タカパーチによる人間ジュークボックスのパフォーマンスが行われたほか，会場の子どもたちが即席のお台所楽団として鍋のフタやフライパンを用いて演奏し，最後にタカパーチ，お台所楽団，ビューグルバンドで「崖の上のポニョ」の合奏を行い，大いに盛り上がった。

（２）奄美パークわらべ島唄大会

奄美パーク主催による子どものシマ唄大会を開催

日時：平成２２年５月５日（水）10:00～15:00

場所：イベント広場　　参加者数：約２８０名

内容：　奄美の将来を担う子ども（あまみっ子）たちが，シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともに技法を学び，シマ唄文化を広く後世に伝える目的で開催した。

　オープニングには，審査対象外だが，８名の保育園児が華を添えてくれた。また，ゲストの若手唄者によるシマ唄もあり来園者は楽しんでいた。小学校低学年の部に７名，小学校高学年の部に１６名，中学生の部に８名が参加し，それぞれ優勝を目指し，師から学んでいるシマ唄を熱唱してくれた。

　表彰式では，部門ごとの優勝・準優勝・三位の受賞者に，宮崎園長から賞状と記念品が授与され，最後に審査員やゲストと一緒に記念写真を撮影した。

（３）ネリヤカナヤフェスタ

多くの恵みをもたらしてきた奄美の海を来園者に紹介するイベントを開催

ア　オープニングイベント

日時：平成２２年７月１８日（日）13:30～15:30

場所：イベント広場　　参加者数：約３００名

内容：　勇壮で迫力のある奄美大島うるまエイサーのオープニングで始まり，大島北高校の吹奏楽部による趣向を凝らした演奏，さざ波バンド（奄美市立伊津部小学校）による軽やかな踊りや力強い演奏で会場は盛り上がったほか，伊勢加奈子さんによる美しい歌唱，城昭久さんによる島口講座ではイタリア歌曲を島口訳にするなど，来場者を楽しませた。

また，期間中行われる西田テル子氏の「ネリヤカナヤ写真展」や奄美漁業協同組合の協力による大漁旗の展示，第１２回ハッピーイースター卵あそびコンテストの受賞作品などの展示，けんむんクイズラリーでは多数の子どもたちが参加し，イベントを盛り上げた。

イ　展示関係

期間：平成２２年７月１８日（日）～平成２２年８月３１日（火）

場所：アイランドインフォメーション付近

内容：（ア）西田テル子ネリヤカナヤ写真展「奄美・神々の島」

（イ）大漁旗（奄美漁業協同組合）

（ウ）第１２回卵あそびコンテスト受賞作品展

（ハッピーイースター卵あそびコンテスト実行委員会）

期間中の来園者数：１１，５６９名

ウ　関連イベント

（ア）けんむんクイズラリー

期間：平成２２年７月１８日（日）～平成２２年８月３１日（火）

場所：あしびの庭，アイランドインフォメーション付近

内容：　けんむんが出題するクイズを探しながら答え，展示物への理解を深めるクイズラリーを行った。ネリヤカナヤフェスタにちなみ，海に関する問題を１２問配置した。

（イ）親子工作教室「タマゴのからであそぼう！」

日時：平成２２年８月２３日（日）13:30～15:30

場所：レクチャールーム　　参加者数：３５名

内容：　ネリヤカナヤフェスタ期間中の「ハッピーイースター卵あそびコンテスト受賞作品」（ハッピーイースター卵あそびコンテスト実行委員会主催）の展示に合わせ，卵の殻を使った工作教室を行った。イセ食品より工作に使う卵の殻１３０個の提供があり，子どもたちは色々な方法で卵の工作を楽しんだ。

まず，講師が卵の中身を出す方法を実演し，次に子どもたちが卵の殻にペイントしたり，シールを貼ったりしてイースターエッグを制作し，最後に卵の殻をカットし接着するなどして造形を楽しみ，卵の形をうまく利用した作品ができあがった。

（４）サマーコンサート

帰省客や一般観光客へ向けて地元のバンドを中心に夏らしい音楽や舞踊のイベントを開催

日時：平成２２年８月１５日（日）14:00～15:45

場所：イベント広場　　参加者数：約２２０名

内容：　隆柳流福沢教室の小学生らによる「島のブルース」の日本舞踊で幕を開け，奄美の地元バンド・AMAMJAUBB，東京のマーレーズ, 地元笠利町の笠利ジャンベクラブによる演奏, 隆柳勘儷のユニークな日本舞踊「ばしゃ山節」と続き，最後は出演者らによる六調で締めくくった。

（５）フユウンメコンサート

収穫祭のフユウンメにちなみ，心温まる音楽や舞踊のイベントを開催

日時：平成２２年１２月１２日（日）13:30～15:30

場所：イベント広場　　参加者数：約１９０名

内容：　収穫を祝うフユウンメにちなみ，芦検集落民謡保存会による稲すり踊りでオープニングを飾り，続いてYOSHITAKE EXPEによる即興ギターライブ，古仁屋のSHO SHO BANDによるバンド演奏が披露された。濱田洋一郎と商工水産ズは奄美の応援ソング５曲を楽しいトークを交えて歌い上げ，会場を盛り上げた。また，音響はYOSHITAKE EXPE特注の真空管音響システムを採用し，より豊かで温かな音でシマ唄やバンド演奏を提供したほか，開演前後と舞台入替えの時間には奄美で録音された波の音や鳥のさえずりなどの環境音を流し，来場者は真空管を通した温かな音を味わっていた。

（６）初春唄あしび

正月休みを利用して奄美を訪れる観光客や帰省客が，郷土芸能を中心とした奄美の文化に触れるイベントを開催

日時：平成２３年１月３日（月）13:30～16:00

場所：イベント広場　　参加者数：約３１０名

内容：　坪山豊さん企画による新春恒例の「初春唄あしび」を開催した。昇三味線・島唄教室の朝顔節で始まり，一条流紫寿音会の日本舞踊，柳清会本流の琉球舞踊や山元俊治さん・皆吉佐代子さん・坪山世名君・坪山豊さんらのシマ唄や節田マンカイ保存会による「正月マンカイ」で新年を華やかに祝った。また，最後は出演者と来園者で六調を踊り，会場は盛り上がった。

（7）奄美パーク春まつり　～シマジマだより～

春間近なこの時期に，奄美群島の各シマジマの伝統芸能や地域で活動する団体を紹介するイベントを開催

日時：平成２３年２月６日（日）13:30～15:30

場所：イベント広場　　参加者数：約１９６名

内容：　今回は北大島編と題し，北大島（奄美市，龍郷町）からの出演者を中心にその魅力を再確認することを目的に開催した。併せて，奄美の物産の購買促進のため，大島本島地区農林産物直売所等や奄美市が認定する一集落１ブランドの物産販売など「まちむら自慢特産品バザール」を行った。

　ステージでは，あしたば太鼓による太鼓演奏，山田薫さんによる「島口漫談」，赤徳小中学校合唱同好会による合唱，盛島貴男さんによる竪琴演奏，カッペラーズによるアカペラでステージは盛り上がった。

　会場には大勢の来場者があり，特産物の買い物や，ステージをゆっくりと楽しんでいた。

（8）奄美パーク春まつり　～サンガツサンチ～

桃の節句にちなみ，女性のみの出演者で舞台を構成

日時：平成２３年３月６日（日）13:30～15:30

場所：イベント広場　　参加者数：約２６５名

内容：　舞台は第一部と第二部に分け，第一部は，昨年の第１２回民謡民舞少年少女全国大会高学年の部で民謡小学生日本一に輝いた楠田莉子さんと，師匠の森山ユリ子さんによるシマ唄，ピアノとヴァイオリンのデュオKIWIGOによるクラシック演奏，ブーランヌールによるベリーダンスの群舞で構成した。

　第二部は，沖永良部島出身の歌手・大山百合香さんのミニライブを開催した。イベント中は舞台脇の奄美の古民家にて県立大島高校茶道部による春の茶会も同時開催し，来場者は春の気分を満喫していた。当日はイベント時刻に団体ツアー客の来園も重なり，会場は地元客や観光客らで賑わっていた。

２　奄美の郷ライブステージ

（１）５月ライブステージ「でぃ・まーじんま！！第５弾」

日時：平成２２年５月２３日（日）13:30～15:50

場所：イベント広場　　参加者数：約５００名

内容：　今年で５回目となる「島んちゅ会」によるライブステージ「でぃ・まーじんま！！（さあ，ご一緒に）第５弾」を開催した。シマ唄，日舞，三味線合奏，天草・六調など盛りだくさんの催し物で来場者を楽しませた。今年は子どもによる出演者が多く，かわいい子ども島唄に会場は和んだ。

　また，唄にあわせて演じた寸劇も会場に大爆笑を巻き起こした。最後の六調では，お年寄りも子どもも楽しそうに踊る姿が見られた。

（２）６月ライブステージ「汝きゃ我きゃ島唄しょーろ！！」

日時：平成２２年６月２０日（日）13:30～15:50

場所：イベント広場　　参加者数：約２１０名

内容：　龍郷町島唄保存会によるライブステージを開催した。長朝花節のオープニングの後，たっぷりとシマ唄を披露し，六調・天草の太鼓や踊りで締めることで，多くの来場者を楽しませていた。また，サブタイトルにもなっている「汝きゃ我きゃ島唄しょーろ！！」（あなた方と私達で島唄を唄いましょう）ということで，会場のみなさんと出演者が一緒になって歌って，踊って楽しんでいた。

　なお，今回は草月流SSC in KANSAIによる地元の植物を使った生け花の舞台展示もあり，よりいっそう華やかなイベントとなった。

（３）９月ライブステージ「～南風（はえね）の音にゆらおう～」

日時：平成２２年９月２０日（月）13:30～15:30

場所：イベント広場　　参加者数：約４５０名

内容：　「玉城流 琉扇會 山元孝子琉舞道場」による～南風の音にゆらおう～と題してライブステージを開催した。

　琉球舞踊，築地俊造さんの島唄，Hula・ミンゴ，加奈ハワイアンフラスタジオによるフラダンス，開運太鼓の演奏など盛りだくさんの催し物に多くの来場者が楽しんだ。

　最後に，六調で出演者と来園者が一体となりステージは大いに盛り上がった。

（４）１０月ライブステージ「Dancer In The Park 2010」

日時：平成２２年１０月１７日（日）15:00～16:30

場所：イベント広場　　参加者数：約５３７名

内容：　昨年に引き続き２回目の開催となった当イベントは，プロダンサーSEIJI，PEET，K-SUKEらの華麗なダンスや，大島高校新体操部のすばらしい踊り，西村ダンス教室のかわいらしい子ども達のダンス，Xhildrenの楽しいパフォーマンスなど会場は大いに盛り上がった。

（５）１１月ライブステージ「天城町＆笠利町　あらしゃげてぃ　いっちゃりょんかい」

日時：平成２２年１１月２１日（日）13:30～16:00

場所：イベント広場　　参加者数：約３２０名

内容：　奄美の郷ライブステージ，「天城町＆笠利町　あらしゃげてぃ　いっちゃりょんかい」を開催した。天城町子宝六調バンドの森田美咲さんの島唄でオープニングを飾り，道の島太鼓は迫力ある太鼓の音を会場一杯響かせた。ほこらしゃは三味線ジャンベ・ヴァイオリンによるバンド演奏で島唄を披露し，笠利ジャンベクラブは，軽やかなジャンベのリズムを聴かせてくれた。いっちゃりょん会による六調太鼓自慢・八月踊り，六調では出演者と観客が一体となってそれぞれの踊りを楽しみ，会場は大いに盛り上がった。

（６）２月ライブステージ「第８回　奄美島唄への誘い」

日時：平成２３年２月２０日（日）13:30～16:00

場所：イベント広場　　参加者数：約１４０名

内容：　「笠龍地区民謡保存協会」と森ドラム教室によるライブステージを開催した。

第１部には１１名の唄者が出演し，笠利・龍郷地区を中心に歌われる島唄，カサン唄の繊細な調べが島唄ファンを魅了した。

第２部には，森ドラム教室の小学生４名が出演，リズミカルなドラム演奏を来場者も楽しんだ。

第３部には，奄美民謡大賞受賞者を含む６名の唄者が島唄を披露した。

最後の六調では，出演者も来場者も一緒に踊り，ステージを締めくくった。

３　文化講演会

日時：平成２２年１０月１０日（日）12:30～15:30
場所：イベント広場　　参加者数：約１４２名
内容：　平成１６年度にも講演を頂き好評であった神田紅氏を招き「日本講談協会会長になって」という演題で講演会を開催した。

今年度は講演会の前にオープニングコンサートとして「龍郷町ナツメロ同好会」の皆様によるコンサートも行った。生バンドをバックに懐メロの歌唱で会場は盛り上がった。

神田氏の講演では，来場者と一緒に講談をし，体験を通じて講談の楽しさを伝えた。また，生きがいを持つことの大切さを強調した。

最後の宮崎園長と神田氏によるトークショーでは，仲の良いお二人ならではの楽しいトークで講談の魅力など，笑いを交えながら締めくくった。

４　その他の自主事業

（１）けんむんクイズラリー

日時：平成２２年５月３日（月）10:00～16:00
場所：奄美の郷及び田中一村記念美術館
内容：　観光客だけではなく地元の客も多いゴールデンウィークに「けんむんクイズラリー」を行った。朝早くからクイズラリーに参加するために来園するなど，地元での定着が伺えた。子どもたちは館内のクイズを探しながら，楽しそうに観覧していた。
参加者数：約１０６名
日時：平成２２年１１月３日（水）10:00～16:00
場所：奄美の郷及び田中一村記念美術館
内容：　観覧料が無料になる文化の日に総合展示ホール及び田中一村記念美術館の展示物に興味を持ってもらう機会として「けんむんクイズラリー」を行った。家族で展示を熱心に見ながら解答する姿も見られ，展示物を充分理解してもらえる機会になった。
参加者数：約４０名

（２）地球交響曲（ガイアシンフォニー）第７番上映会

日時：平成２２年７月２４日（土）13:30～16:10
場所：イベント広場　　参加者数：約９０名
内容：　平成２１年の皆既日食の奄美での映像を使用した「地球交響曲（ガイアシンフォニー）」を上映し，龍村仁監督によるトークショーを行った。

（３）奄美パークこどもクリスマス会

日時：平成２２年１２月１９日（日）10:00～11:30，14:00～15:30

場所：イベント広場

内容：　地元のダンスグループ「ヂルドレン」による楽しいダンスパフォーマンスと「リッコジャズバレエダンススタジオ」の子どもたちによるダンス，ミスタードラゴンによる楽しいマジック等の演目が披露され，最後は大抽選会で子どもたちは盛り上がった。

　また，午後の部では１０月の豪雨により災害を受けた奄美の子どもたちを元気づけたいということで，沖永良部から大山百合香＆中山光昭のユニットが唄を披露した。子どもたちを中心に大勢の来客に恵まれ，大盛況であった。

参加者数：午前の部１,７００名　午後の部２,０００名

（４）奄美パーク　クリスマスコンサート

日時：平成２２年１２月２３日（木）16:30～20:00

場所：イベント広場

内容：　ワークショップでは地元小・中・高校生を対象にマリンバの組み立てと音出し，演奏体験の教室を行った。クリスマスコンサートでは，プロの演奏家によるマリンバとヴァイオリンの演奏が披露され，その調べに観客は聴き入っていた。後半では，観客も一緒に「あわてん坊のサンタクロース」や「きよしこの夜」を唄い，盛会のうちにコンサートを終了した。

参加者数：ワークショップ１０名，コンサート８３名

（５）新春寄席

日時：平成２３年１月９日（日）14:00～16:00

場所：イベント広場　　参加者数：約３００人

内容：　新年に際し，普段生の落語に触れる機会が少ない奄美の人々に落語を楽しんでもらうとともに，奄美パークを身近に感じてもらい，新春を笑いで始めようと開催した。

　園長の挨拶後，前座に鹿児島県鹿児島市出身の瀧川鯉八さんが登場し，「転失気」で若手らしく軽快で楽しい前座で始まった。

　仲入りの後には，桧山うめ吉さんが登場し，三味線や歌踊りなど俗曲を披露，真打として１０年以上の実績を持つメインの桂歌助さんはこの日２度出演し，「金明竹」「明烏」を披露した。巧みな話術に会場は笑いの渦に包まれた。

Ⅳ　田中一村記念美術館企画事業

１　奄美関係作家展

（１）重照代の原点　布によるパッチワーク　０１

期間：平成２２年４月１８日（日）～平成２２年５月９日（日）
場所：企画展示室　　期間中の入館者数：２，３５６人
内容：　大和村在住の重照代氏によるパッチワーク展を開催した。２００点以上ある作品の中から，初期の作品が４１点展示された。１９８６年から１９９０年に制作された初期作品は，白と黒の正方形を編みこんだ大型作品が特徴。３ヶ月もかけ，編んだパッチワークは３ｍにもなり，訪れたお客様を驚かせた。

（２）鹿児島県美展～奄美関連作家秀作展

期間：平成２２年６月１３日（日）～平成２２年７月４日（日）
場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１，６５８人
内容：　第５７回鹿児島県美展に出品された奄美群島在住の方々の作品を展示した。２６名の洋画及び写真の作品を一堂に展示し，観光で訪れた方に紹介した。また，地元の方も数多く来場し，様々な切り口や独特のスタイルの絵画や写真があり，とても好評で今後とも継続して欲しいとの声が多く，奄美群島の芸術振興に大きく貢献した。

（３）“あれから６年１８の夏”屋嘉比寛ＣＧ展

期間：平成２２年７月１１日（日）～平成２２年８月１日（日）
場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１，６７０人
内容：　小学校４年生の時に田中一村の作品に感銘を受けた屋嘉比寛さん。以来，ペイントソフトを使い様々な奄美を表現し，小学校６年生の時に田中一村記念美術館で個展を行い，多くの反響を呼んだ。
　それから６年が経ち，１８歳になった屋嘉比寛を知ってもらおうと個展を開催。今までにない表現方法を用いて構成された作品群は，来館者を魅了した。

（４）「ここから」本田紘輝展

期間：平成２２年８月８日（日）～平成２２年８月２９日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：３，３１１人

内容：　１９９５年に鹿児島市で生まれ，２００７年１２歳という若さでこの世を去った本田紘輝君。紘輝君は，幼い頃からその才能を発揮し，全国各地のコンクールで賞を受賞する。病と闘いながら描かれた作品は，まだ見ぬ未来を創造するものや，「病気に負ケテタマルカ」という思いが描かれていた。深い家族の絆で結ばれ描かれたその作品からは，多くの方が勇気をもらった。

（５）「未来発奄美　バード加代子展」

期間：平成２２年１２月１９日（日）～平成２３年１月９日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１，２７９人

内容：　田中一村に魅了され，１９９６年から奄美大島と関わりを持つ画家バード加代子氏による個展を開催。奄美大島での個展は奄美文化センターに続き２度目。画家の目線から捉えた奄美大島の植物が，パステル絵具によって描かれ，訪れた観客を魅了した。中でも高さ２ｍ５０ｃｍにもなるキャンバスを９枚並べた組作「花帰実残」は，見る者を圧倒した。

（６）「Ｉ　ＬＯＶＥ　ＡＭＡＭＩ　あかぎあけみの世界展」

期間：平成２３年１月１６日（日）～平成２３年２月６日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１,４６７人

内容：　２００８年に神奈川県から奄美大島に移住した画家赤木明美氏による個展を開催。独自のフィルターで捉え描かれた奄美大島がアクリル絵画，銅版画含め約６０点展示された。風景全てが題材になるという氏の作品には，立神やガジュマルなど，奄美の人にとって身近なものが描かれている。奄美大島に住むお客様からは「画家の目線から見える奄美大島はとても魅力的。勉強になりました」などの意見が寄せられた。

２　田中一村記念美術館特別展「田中一村　新たなる全貌展」

（１）田中一村記念美術館特別展「田中一村　新たなる全貌」

期間：平成２２年１１月１４日（日）～平成２２年１２月１４日（火）

場所：田中一村記念美術館　　期間中の入館者数：３，８８９名

内容：　生誕１００年を機に，当館と一村ゆかりの栃木，千葉，鹿児島の美術館が中心となって，現存する一村作品をあらためて調査し直し，新たに発見した資料も含めて２００点以上を一堂に展示した過去最大規模の「田中一村展」となり，また当美術館が贈る初の巡回特別展となった。展示作品には全国各地に散在する未公開作品や奄美初公開となる借用作品などが多数含まれ，伝説的に生涯ばかり語られがちであった一村の画家としての実像を浮かびあがらせた。

（２）田中一村記念美術館特別展「田中一村　新たなる全貌」オープニングセレモニー

日時：平成２２年１１月１４日（日）14:20～16:00

場所：奄美の郷イベント広場　　参加者数：６０名

内容：　記念ミニコンサートをかわきりに，田中一村記念美術館館長宮崎緑のあいさつ，千葉市美術館の祝辞，来賓，協力者紹介の後，館長をコーディネーターとして，関係者によるトークショーを実施。多くの参加者がこの特別展開催にまつわる話について聞き入っていた。最後は築地俊造さんによる島唄で締めくくった。

３　第９回　奄美を描く美術展

期間：平成２２年１０月１７日（日）～平成２２年１１月７日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１，０９４人

内容：　今年度で９回目を迎える奄美を描く美術展では，県内外の作家８１名から１１２点の作品が出品された。審査員長として文田哲雄氏（鹿児島市立美術館館長），審査員として久保井博彦氏（名瀬美術協会会長），前村卓巨氏（鹿児島県立松陽高等学校美術教諭）によって行われた審査会では，「奄美群島独特の光や空気を丁寧にとらえた作品が多かった」という言葉があった。展示会では，奄美群島を題材とした作品を熱心に鑑賞する観客の姿が見られた。

「第９回　奄美を描く美術展」入賞作品

奄美を描く美術展大賞
（奄美サンプラザホテル・サンデイズイン鹿児島賞）
「加計呂麻来々夏」
F15　油彩　井上伸久（鹿児島県）
身近にある風景を幻想的に表現し，透明感を感じる。島独特の光を上手に捉え，しっとりとした色調となっている。

田中一村記念美術館賞（アマンデー賞）
「Hexa　Diver　Ⅳ」
F15　油彩　小牟禮雄一（鹿児島県）
森の木漏れ日を捉え，枯葉などの植物に対する細かい観察力が活きた作品。対角線の使い方も良い。

奄美空港ターミナルビル賞
「あまん」　F15　油彩　大江弘治（鹿児島県）
画面に上手く収まった作品であり，アダンの実の配色が効果的。作者の愛情がこもった作品となっている。

鹿児島県観光連盟賞
「抱かれる海」ー蒲生にて
F15　油彩　吉田浩気（東京都）
水平・垂直を基準とした構図の中に植物を配置し，工夫が感じられる。奄美の色を感じている。

奄美群島観光連盟賞

「徳之島からの風」

F15　油彩　上木原堅一（鹿児島県）

砂浜・海・空の色をしっかりと描いている。人物を上手く取り入れ，全体の色彩も的確。

佳作・奄美の海賞

「オサかき」

F15　アクリル　藤山光通（鹿児島県）

奄美の風物を描き，人物の取り組みが伝わってくる作品。道路の線が作品を引き立たせている。

佳作・奄美の空賞

「I　LOVE　AMAMI・“月の立神・土浜”」

F15　アクリル　あかぎあけみ（鹿児島県）

海の上の世界，中の世界，様々なイメージを折り重ね，楽しく展開された作品に仕上がっている。

佳作・奄美の杜賞

「ガジュマル」

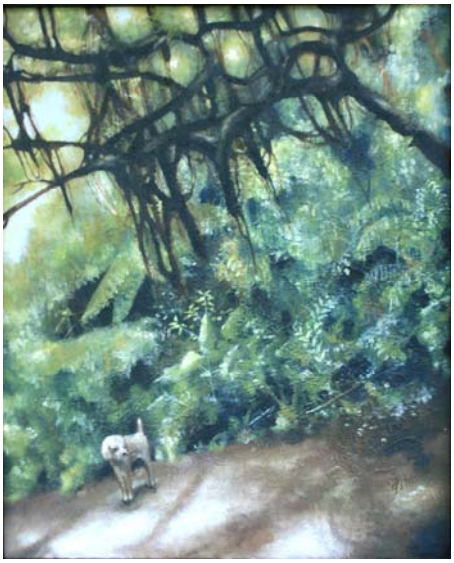
F15　日本画　前田正樹（神奈川県）

タニワタリ・ガジュマルの共生を柔らかいトーンで描いた作品。構成された構図に奥行きを感じる。

奨励賞

「Sweet　1：００」

F15　油彩　渡邉天乃（鹿児島県）



奨励賞

「喜世間浜の思い出」

F15　油彩　重　博務（鹿児島県）

奨励賞

「空」役勝川

F10　日本画　中村哲郎（鹿児島県）

奨励賞

「島山羊」

F15　水彩　満　英良（鹿児島県）

４　第６回　新緑～紅葉スケッチコンクール

期間：平成２２年１０月１７日（日）～平成２２年１１月７日（日）

場所：奄美の郷　アイランドインフォメーション付近

内容：　奄美パークの建物や奄美パークから見える風景を題材とし，幼児から一般の方を対象とした公募展「第６回　新緑～紅葉スケッチコンクール」を開催。６０点の作品が出品され，前畑省三審査委員長（鹿児島県女子短期大学名誉教授）による審査の結果，奄美小学校の堀口琴菜さんの「ひるのサガリバナ」がジュニア大賞，一般の森山逸子さんの「ガジュマルの木の下で」が大賞に選ばれた。奄美の郷に全ての作品が展示され，訪れた方は鑑賞を楽しんだ。

期間中の入館者数：２，９３３人

５　「第６回新緑～紅葉スケッチコンクール」及び「第９回奄美を描く美術展」授賞式

日時：平成２２年１１月３日（水）13：00～14：00

場所：奄美の郷　イベント広場　　参加者数：８６人

内容：　１１月３日の文化の日，「第６回新緑～紅葉スケッチコンクール」及び「第９回奄美を描く美術展」の表彰式がイベント広場で開催された。

新緑～紅葉スケッチコンクールでは，幼児から一般まで６０名の応募があり，２０名が入賞した。ジュニア大賞を受賞した堀口琴菜さん（奄美小１年）を始め，受賞者にはそれぞれ賞状と額が手渡された。

奄美を描く美術展の表彰式では，大賞を含む１２名の方に賞状と額が手渡された。

６　美術講演「アマミノクロウサギ」

日時：平成２３年２月２７日（日）15：00～16：30

場所：奄美の郷　レクチャールーム　　参加者数：２０人

内容：　奄美市名瀬の写真家である浜田太氏が，奄美大島と徳之島に生息する特別天然記念物アマミノクロウサギを自身が撮影した映像や写真を使い，子育てや授乳の様子などについて解説し講演を行った。

世界自然遺産登録に向けて，奄美のクロウサギの生態を紹介することで奄美の自然の素晴らしさや，水という血液の循環の重要性，森をどうやって守っていくかなどについての話もなされた。

７　その他企画展

（1）ＴＯＤＡＹ’Ｓ　ＡＲＴ　ＴＥＸＴＩＬＥ　in　ＡＭＡＭＩ　vol.2

期間：平成２２年３月２３日（火）～平成２２年４月１１日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１，２８７人

内容：　平成１９年の企画展で大変好評だった武蔵野美術大学OBによる「TODAY'S ART TEXTILE in AMAMI」が第２弾として開催された。２３名の作家による作品は，どれも個性的な表情を演出しており，アイデンティティー豊かな展示となった。訪れたお客様は，作品一つ一つに時間をかけ鑑賞され，思い思いの感想をアンケートに記していた。

（2）「紙の上の仕事」森下良三展

期間：平成２２年５月１６日(日）～平成２２年６月６日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１，５９９人

内容：　名古屋市立大学・大学院教授の森下良三氏による個展「紙の上の仕事」森下良三展を開催。「雲肌麻紙」という厚手の和紙を使い，アクリル画で描いた若松や水，森の散歩道などを描いた作品は，透明感のある作品となっており，鑑賞する者の視覚を刺激し，作品の向こう側の世界を創造させ，幻想的な作品群となった。額縁をあえて使わないことにより，色彩の持つ強弱が表現され，鑑賞者を驚かせるような展示会となった。

（3）第２回　大高芸術祭

期間：平成２３年２月２７日（日）～平成２３年３月１３日（日）

場所：企画展示室　　期間中の入館者数：１，０７８人

内容：　県立大島高等学校の美術部及び書道部による作品展を開催。美術部では油絵やデザインなど１７点の作品を展示し，書道部では１６点の作品を展示した。展覧会初日には，県立大島高等学校の吹奏楽部によるオープニングコンサートが行われ，鑑賞に訪れた人を魅了した。

８　その他

（１）夏休み親子スケッチ大会

期間：平成２２年７月２５日（日），平成２２年８月２２日（日）
場所：奄美パーク内　　参加者数：５３人
内容：　夏休み企画として親子スケッチ大会を開催した。７月は朝日中の岩崎美紀先生，８月は２００９年奄美市美展受賞者の赤木明実先生の指導の下，奄美パーク内の風景や建物，植物，生き物など親子それぞれで描いて夏休みの思い出を作った。

（２）創作体験教室（風景画講座）

日時：平成２２年９月１９日（日）9:30～16:30
場所：奄美の郷　レクチャールーム　　参加者数：１８人
内容：　一般の方々を対象に風景画の絵画教室を開催。講師に鹿児島女子短期大学名誉教授の前畑省三先生を招き，レクチャーを受けた後，奄美パーク園内の風景を題材に作品を描いた。主題・副題の表現の仕方を学び，直接手ほどきを受けた方は「自分の悩んでいたことが解決できた。また次も必ず参加したい」と語っていた。

（３）親子美術館探検

日時：平成２３年１月２日（日）10:30～12:00
場所：田中一村記念美術館　　参加者数：２８人
内容：　普段入ることが出来ない美術館の裏側を知っていただこうと親子美術館探検を開催。美術館事務所の紹介から始まり，館長室・学芸員室・バックヤードを巡り，田中一村の作品をどうやって保存しているか等を解説。
　また，屋外にある「一村の杜」の植物などを紹介し，より田中一村を身近に感じていただいた。参加した親子からは「作品を見せるだけではなく，ベストな状態を維持する美術館の役割を知った」などの感想が寄せられた。

（４）創作体験教室（人物画講座）

期間：平成２３年２月１２日（土）～平成２３年２月１３日（日）
場所：企画展示室　　参加者数：４０人
内容：　地域の文化芸術の振興や芸術への理解を深めることを目的として二科会鹿児島支部長の西健吉先生を講師に，平成２２年度創作体験教室人物画講座を開催。デッサンの基本から，人物の指先までの表現などを学び，モデルとなった女性の人物画に取り組んだ。
　今回で三度目の受講となる方からは「丁寧な指導をいただき毎年勉強になります。自分なりの課題を探すのも楽しみ」との感想が寄せられるなど，地域の方から高い評価を得ている。

Ⅴ　各種イベントポスター

あたたかなオド♪あたたかなオンガク♪
フユウタ
コンサート
入場無料
2010/12/12(日)
13:30～15:30
奄美パーク屋内イベント広場
YOSHITAKE EXPE
SHO SHO BAND
奄美パーク

奄美パーク
こどもクリスマス会
12月19日(日)
【午前の部】午前10時から
【午後の部】午後 2時から
場所／奄美パーク屋内イベント広場
ダンスミュージカル（チルドレン）
マジック（ミスタードラゴン）
ダンス（リッコジャスバレエダンススタジオ）
うた（大山百合香・中山光昭）
クリスマス大抽選会
奄美パーク

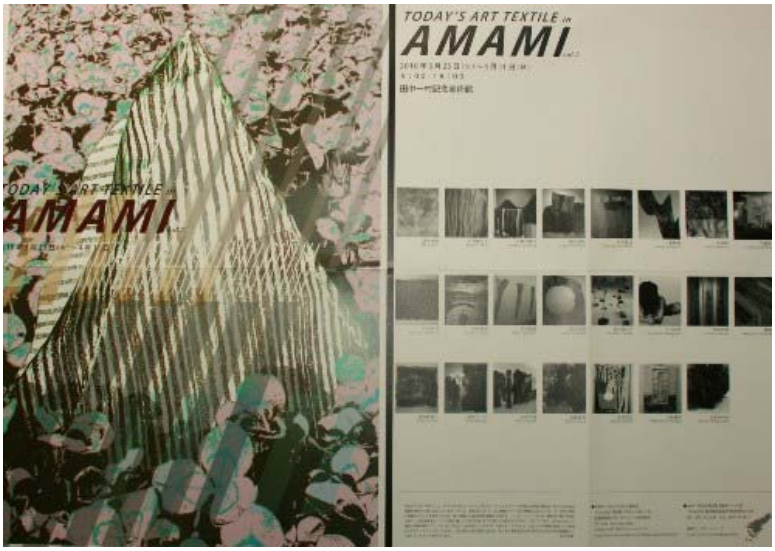
聖夜に送るマリンバの響き
奄美パーク
クリスマスコンサート
平成22年12月23日(木・祝日) 奄美の郷 イベント広場
16:30～17:30 マリンバワークショップ（無料）
18:00～20:00 マリンバコンサート（入場料 1,000円）
出演者
奄美パーク

初春唄あしび
【内容】
シマ唄
琉球舞踊
日本舞踊
節田マンカイ
坪山 世名・豊
一桑流紫寿音会
柳清会本流
昇三味線・島唄教室
節田マンカイ保存会
日時：平成23年1月3日（月）午後1時30分～
場所：奄美パークイベント広場
鹿児島県奄美パーク
URL：http://www.amamipark.com/
TEL0997-55-2333 FAX0997-55-2612

奄美パーク
～シマジマだより北大島編～
日時：2月6日(日) 13:30～
場所：奄美パーク屋内イベント広場
あしたば太鼓
盛島青男(竪琴)
赤徳小中学校 合唱同好会
山田薫(島口漫談)
カッペラーズ
まち・むら自慢の特産品がいっぱい!!
まち・むら自慢特産品バザール
日にち：2月6日(日)
時間：10:00～16:00
場所：奄美の郷 アイランドインフォメーション
奄美パーク

奄美の郷ライブステージ
第8回 カサン唄 いさな
奄美島唄への誘い
笠能地区民謡保存協会
森ドラム教室
日時：平成23年2月20日(日)
午後1時30分～
場所：奄美の郷 屋内イベント広場
奄美パーク
奄美市笠利町節田1834
電話 0997-55-2333
FAX0997-55-2612
http://www.amamipark.com/

春まつりサンガツサンチ
奄美パーク


TODAY'S ART TEXTILE in
AMAMI

重照代の原点
布によるパッチワーク01
入場無料

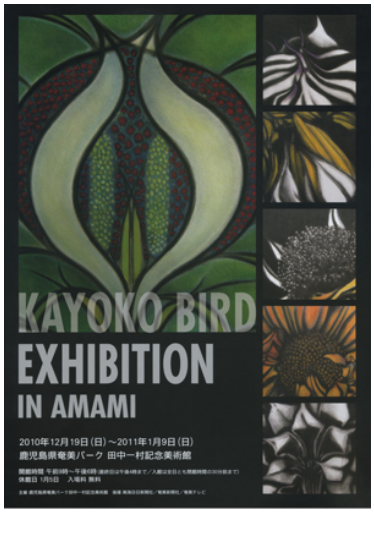
「紙の上の仕事」森下良三展
May 16 - June 6, 2010
The Young Pine Tree 2009
鹿児島奄美パーク　田中一村記念美術館／企画展示室

県美展 奄美関連作家秀作展
洋画
久保井博彦
濵元良太
大江弘治
恵スマ
安藤和久
平石厚史
中野誠
義間久高
鈴木るり子
赤木明実
渡洋子
上木原堅一
写真
稲光政
林幹根
新村義光
与敏道
波祥子
福永加代子
赤塚リエ子
安村フミ子
田畑より子
久野末勝
益満久美
福山由美子
森美佐子
西康範
特別招待作家
前村卓巨（洋画）　村上光明（写真）
平成22年6月13日（日）～7月4日（日）
※6月16日（水）～18日（金）美術館休館日
田中一村記念美術館 企画展示室
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館

あれから6年
18歳の夏
屋嘉比寛
CG展
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
平成22年7月11日（日）～8月1日（日）
入場無料　開館時間　9：00～19：00

「ここから」
本田紘輝 展
平成22年8月8日(日)～8月29日(日)
(期間中無休)
主催　鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館

田中一村
新たなる全貌
2010.
11.14(日)
12.14(火)


KAYOKO BIRD
EXHIBITION
IN AMAMI
2010年12月19日（日）～2011年1月9日（日）
鹿児島県奄美パーク 田中一村記念美術館

2011
I LOVE AMAMI
あかぎ あけみ の世界展

DAIKO ART FESTIVAL
第2回 大高芸術祭
平成23年
2月27日日▶3月13日日
作品展
内容：書道部・美術部合同展示
日時：2月27日（日）～3月13日（日）
オープニングセレモニー 2/27 13:00～
場所：奄美パーク田中一村記念美術館
企画展示室（入場無料）
ミニコンサート
主催 鹿児島県立大島高等学校 0997-52-4451

Ⅵ　奄美パーク応援隊について

（１）結成目的

鹿児島県奄美パークの活動を支援することにより，魅力ある奄美パーク実現の一助とし，ひいては奄美群島の観光の発展に役立てる。

（２）隊員数

３６名（平成２３年３月３１日現在）

（３）年間活動回数（延数）

９８回（平成２３年３月３１日現在）

（４）活動内容

奄美パーク応援隊は奄美パーク内のガイドをすることを目的として平成１５年に発足した。

現在，展示案内ガイド，手熟ガイド，園芸サポーター，一村サポーターという４つの分科会で構成され，それぞれ得意な分野で活動している。このうち展示案内ガイドのみ研修が義務づけられている。

隊員には登録証を発行し，年２回以上の活動を義務づけている。なお，登録証は奄美パークのフリーパスになっており，応援隊の活動時以外にも提示すれば，奄美パークの有料ゾーンに入ることができる。

月に一度配付する「応援隊通信」には活動の予定や奄美パークの行事予定，活動報告などを掲載している。また，奄美パークのホームページ内でも活動の内容などを紹介している。

（５）分科会

ア 展示案内ガイド

奄美の歴史や文化，自然，島の暮らし，観光ポイントなどの紹介。田中一村記念美術館における鑑賞のポイントを案内する。（１５名）

イ 手熟ガイド

機織り，三味線，太鼓，ナンコ，ソテツ編み等，島に伝わる遊びやモノ作りを通して島の紹介をする。（５名）

ウ 園芸サポーター

奄美パーク園地の植物を管理する。（１７名）

エ 一村サポーター

田中一村記念美術館の企画・展示をサポートする。（１３名）

（６）活動内容・実績

ア　展示案内ガイド

月に一度，隊員に来園状況予定表（団体の予約状況）を送付し，来園が可能な日にガイドを行ったり，時間のあるときに来園して個人のお客様を案内している。
また，団体のお客様からガイドの要望があった時には連絡を取ってお願いをしている。

イ　手熟ガイド

各隊員がそれぞれ来園できる日に来て，実演してもらっている。また，予約団体の要望があった場合は，できる限り対応している。現在，三味線など島唄関係の手熟ガイドが多数。

ウ　園芸サポーター

主に奄美パーク園地への植栽を中心に活動している。月に１回または２回の作業日を設けて園内の整備をした。今年度は「花かごしま２０１１」の協賛会場である出会いの広場を中心に植栽の他，名前札を立てたり，草取りなどを行った。また，応援隊の花壇では，ガーベラ，ガザニアなどを株分けして増やし，レストランから見える花壇にたくさんの花を咲かせ，お客様から好評であった。

エ　一村サポーター

企画展示室の搬入・搬出作業をしている。変更や次回の展示については，応援隊通信によりお知らせしている。

オ　その他の活動

（１）応援隊しまうた倶楽部

平成１８年の１０月からしまうた倶楽部を立ち上げ活動を始めた。月に２回練習を行っている。分科会に限らず応援隊なら誰でも参加可能で，島唄を楽しく学び，イベント広場での発表や新たな手熟ガイドの育成を目的としている。今後は定期的に舞台で演奏することを目指したい。

（２）展示案内ガイドデモ

展示案内ガイドデモはガイドに慣れていない隊員がベテランのガイドや職員と一緒に随行案内をし，ガイドに慣れてもらうことを目的に行っている。

今年度は，リーフの観察会や園内の植物観察会など，展示物以外の案内も取り入れた。

Ⅶ　「田中一村　新たなる全貌展」総括

１　「田中一村　新たなる全貌展」開催の背景

明治４１年，栃木県に生まれた田中一村（本名田中孝）は，幼少より画才を発揮し「神童」と謳われていた。東京，千葉へと居を移し，昭和３３年，５０歳で奄美大島に単身移り住み，奄美の動植物や風景をモチーフとして作品を描いた。昭和５２年，作品が中央の展覧会等で認められることなく，６９歳で生涯を閉じた。ほとんど無名であった日本画家田中一村は，昭和５９年，ＮＨＫ教育テレビ「日曜美術館」で「黒潮の画譜～異端の画家田中一村～」が放映され，一躍脚光を浴び，全国における展覧会の開催や，『田中一村作品集』の刊行等により一大ブームとなった。その後も数多くの展示会が開催され，雑誌や美術教科書での紹介，舞台講演や映画化もあった。また，平成１３年には，田中一村終焉の地奄美に田中一村記念美術館を開館し，所蔵寄託作品の展示を行ってきた。もはや田中一村は無名ではなく，「孤高の画家」「奄美の画家」「日本のゴーギャン」などと呼ばれ，全国的に認知度を得た画家となった。

しかし，田中一村の生き方のドラマ性や，奄美の作品群といった一部分がクローズアップされ，作品に関する基礎的な研究やその芸術性に関する考察が十分に行われてこなかったことも事実であった。そこで，２００８年，田中一村生誕百周年を迎えるに当たって，田中一村ゆかりの千葉，鹿児島，栃木，石川の４県の公立美術館の学芸員が「田中一村研究会」を立ち上げ，田中一村芸術とその実像を明らかにするために，田中一村作品の再調査を行った。その研究成果として新資料を含む２００点を超える作品による過去最大規模の回顧展「田中一村　新たなる全貌展」の開催となった。

２　「田中一村　新たなる全貌展」の入場者数等

(1)　入場者数

ア　千葉市美術館

開催期間　　８月２１日～９月２６日

入場者数　　６１，１６６人

イ　鹿児島市立美術館

開催期間　　１０月５日～１１月７日

入場者数　　３０，４６７人

ウ　田中一村記念美術館

開催期間　　１１月１４日～１２月１４日

入場者数　　３，８８９人

＜オープニングセレモニーでのギャラリートーク＞

三館で合計９５，５２２人が「田中一村　新たなる全貌展」を鑑賞した。各館，記録的な入場者数となった。

(2)　図録

美術館の所蔵及び寄託作品に加え，これまで確認した６００点余りの総作品の目録を制作。田中一村のスケッチや写真，落款一覧，生前の年譜に没後の動向も載せた。この図録について，西日本新聞文化欄（平成２２年９月１４日）では「これまで手付かずだった基礎的な作業によって編まれた図録が，新たな検証や考察の礎となることは間違いない。」と評が載せられた。また，朝日新聞夕刊に「力作」と評され，販売数は三館で約１８，０００冊になった。そして，美術館連絡協議会２０１０年美連協カタログ論文賞「優秀カタログ賞」（自主展部門）及び，第５２回全国カタログ・ポスター展「日本印刷産業連合会奨励賞」を受賞した。

３　「田中一村　新たなる全貌展」の展評

(1)　毎日新聞文化欄（平成２２年９月１４日／岸桂子）

「評伝ありき」ではなく，作品個々の基本調査に立ち返ったからこそ，画風の変化と深化が明確になった。「これぞ公立美術館の大事な仕事」と拍手を送りたい。

(2)　讀賣新聞文化欄（平成２２年９月１６日／高野清見）

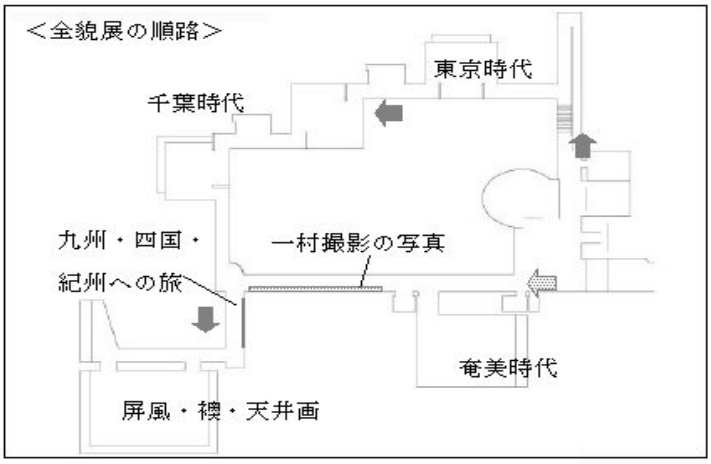
展覧会図録はこれまでに確認できた絵画の総目録，落款一覧も収め，資料的価値が高い。一村がようやくブームの功罪を超え，作品や資料に即して語られる出発点となるだろう。

４　田中一村記念美術館での展覧会構成

展示作品数は約２３０点（内当館所蔵１６０点），展示構成は他の二館同様に，田中一村の生涯の軌跡を追って作品を鑑賞する構成とした。

全貌展以前の順路は右図のように，美術館に入って特別展示室，そして，常設展示室第１～第３へ鑑賞して回るものであった。しかし，この全貌展では，田中一村の東京時代，千葉時代，奄美時代の各時代の作品数や表装等を考慮し，

これまでとは反対に回る順路とした。これにより，各展示室と展示テーマを分けることができ，田中一村の各時代ごとの特徴や変化をとらえやすい展示を行うことができた。



※⇦：全貌展以前の順路

(1)　東京時代（第３常設展示室）

大正３年～昭和１７年，田中一村５歳～３０歳までの作品。約半数を外より借用した。現在確認できている作品の中で，最も幼少で描いた≪蛍図≫や≪松図≫から始まり，東京美術学校退学後，職業画家として腕をふるった掛け軸を並べた。これら軸の作品には，南画家の小室翠雲との接点や，中国南画家の超之謙や呉昌硯に倣った様子を伺うことができ，そして，「自分の将来いくべき画道」を自覚し，悩む時期に入る前の力強さを感じることができる展示となった。

＜第３常設展示室：東京時代の展示風景＞

(2)　千葉時代（第２，第１常設展示室）

昭和１３年～昭和３３年，田中一村３０歳～５０歳までの作品。太平洋戦争により思うような制作ができない時期もあるが，東京時代からすると作品数が倍ほどになる。そこで，第２常設展示室に千葉寺の風景画を展示し，第１常設展示室に花鳥画を展示した。東京時代の写意の南画から，対象を観察して描いた風景画や花鳥画への変化をつくることができた。そして，風景画と花鳥画を分けることにより，千葉寺の牧歌的な風景と，これまでにない色彩の華やかな花鳥画のそれぞれの特徴が際だつとともに，田中一村の対象に注がれるまなざしを感じることができる展示となった。

＜第２常設展示室：千葉時代の展示風景＞

＜第１常設展示室：千葉時代の展示風景＞

(3)　屏風・襖・天井画など（特別展示室）

千葉時代（奄美時代の昭和３５年を含む）に依頼を受けて手がけた屏風・襖・天井画を中心に，東京時代の衝立や屏風，その他掛け軸などの作品を展示。屏風や衝立に描かれた梅や松，菊や軍鶏，そして，山水などから，田中一村の技術の高さを十分に堪能できる展示となった。また，青龍展初入選の≪白い花≫や翌年落選の≪秋晴≫，そして，何らかの公募展に出品し落選したと考えられる≪黄昏≫も見所となった。

＜特別展示室：屏風･襖･天井画等の展示風景＞

(4)　奄美時代（特別展示室）

昭和３３年～昭和５２年，田中一村５０歳～亡くなる６９歳までの作品。この奄美時代は，その大部分を当美術館が所蔵，もしくは寄託により常設展示している作品である。今回，田中一村が命を削って描いた「閻魔大王への土産」と考えられる≪アダンの海辺≫と≪不喰芋と蘇鐵≫を一緒に展示できた。また，魚などの正確なスケッチや本画のための構想画を展示したことにより，田中一村の制作の過程や様子を思い浮かべることができる展示となった。

＜企画展示室：奄美時代の展示風景＞

千葉時代の展示室から奄美時代の展示室に移動する間の廊下壁面を利用して，田中一村が九州・四国・紀州を旅行して描いた色紙や，奄美などで撮った写真を展示した。いろいろな試みが観られる色紙の作品には，近景に大きく植物を配した奄美の作品へつながる構図がある。

観客が展示室を移動しながら，東京時代の南画，千葉時代の風景画や花鳥画，そして，旅行で試みた色紙の作品を経て，田中一村集大成としての奄美の作品群へとつながる画業を辿り，作品を鑑賞できる展示構成となった。

＜九州・四国・紀州の旅の作品展示風景＞

５　「田中一村　新たなる全貌展」を終えて

田中一村の人生のドラマ性や奄美の自然を主題とした特異な絵画世界から沸き起こったブームは過去のものとし，田中一村ゆかりの地の学芸員による「田中一村　新たなる全貌展」での取り組みは，多くの関係者，専門家，報道機関等に理解され評価を得ることができた。そして，田中一村ファンにとっても，新たな田中一村像との出会いの場となったと思われる。例えば，これまで中央画壇で評価されないまま奄美で一生を終えた田中一村がまとう「不遇の画家」という形容，これについて，讀賣新聞記者が展示会の紹介文で，「２０年暮らした千葉では良き支援者がいたし，奄美でも地元の人に制作を頼まれている。不遇の思いは強かっただろうが，画業を貫き，独自の境地に達した歩みは不幸とも言い切れない。ソテツやビロウなどの亜熱帯の植物が神秘性をもって描かれた作品群を前にして，そんな思いにとらわれた。」と書いている。

田中一村は，ただ自分の良心が納得いく絵を描き，「死後，五十年か百年後に絵を認めてくれる人が出てくればいい。」と親しい友人に語っていたという。（「アダンの画帖　田中一村伝」参照）私たちは，「田中一村　新たなる全貌展」を終え，田中一村の作品を正しく評価し，後世に伝えていくためのスタートを切った。これから，私たち田中一村記念美術館の役割について，図録に記した当美術館宮崎緑館長の言葉を紹介し，「田中一村　新たなる全貌展」総括の結びとする。

「生前評価を受けていなかった一村の作品納入の経緯から，ついているべき箱書きやタトウなど，貴重な資料が紛失されていたり，軸物が無惨にはがされて額装されていたり，と研究は困難を極めたが，学芸員の皆さんの専門知識と熱意から成果は着々と上がり，今回の特別展開催に至った次第である。そこから新たな一村の学術的側面が解明されようとしている。一村自身が望んだように，一過性のブームではなく，５０年，１００年後に評価が残る研究の開始をこのような形でご覧いただけることを心から感謝するとともに，情報拠点としての美術館の在り方を極めるべく，奄美の地で改めて気を引き締めるものである。」

鹿児島県奄美パーク事業報告書
リーフ
第 9 号
2011年7月発行

編集・発行　奄美群島広域事務組合
（鹿児島県奄美パーク）
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612

鹿児島県　奄美パーク

奄美の郷・田中一村記念美術館

鹿児島県奄美市笠利町節田1834

ＴＥＬ：0997-55-2333　http://www.amamipark.com/